



BOP層実態調査レポート

再建されたスラムの様子: Sadaramangala Area (バンガロール)



政府によるサダラマンガラ地区の再定住事業において、計800戸の住居が建設された。ここに住む人々は以前、旧バイアパナハリ地区で、飲料水、衛生、水道、電気および排水設備などに問題を抱えながら、100平方フィート(約9 m²)の小さな家に住んでいた。再定住が行われた現在、これらの問題のほとんどは解決され、人々からは生活が改善されたという声も聞かれる。一方、以前日雇い労働を行っていたが、職場が現在の住居と離れたため、通勤できるような環境ではなくなってしまい、小さな店を開き生計を立てる家族もいる。

この再定住場所は、バス停、鉄道の駅、また学校や病院から離れた場所に位置している。またエレベーターの無い集合住宅として住居が建設されたため、特に老人にとっては、階段の昇り降りに苦労する生活を送っている。さらに、水道が個々の住宅まで整備されていないため、最上階に住む人が1階から水を汲み、運ばなければならないなどの問題を抱えている。







*1インド・ルピー=約1.4円(2012年6月末時点)



デェンティ BOP層実態調査レポート

先に支払う必要がある。10,000ルピーを先払いし、残りを3回払い

再建されたスラムの様子: Agrahara Dasara Halli(バンガロール)









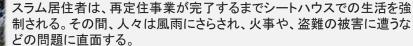
- 戸:約300平方フィート (約28 m²)の広さに、 ベッドルーム1部屋、広間、 キッチン、独立したトイレ、 風呂場で構成されている。

800~1,500戸の 集合住宅として建設。しかし、 エレベーターを設置しないた め、特に最上階に住む住民は 苦労を強いられる。



再建中の様子: Gangondanahalli Slum (バンガロール)

















478/P

テェンナイ

BOP層実態調査レポート

再建されたスラムの様子: KANNAGI NAGAR(チェンナイ)



住宅は無料で提供されるが、住民は月々の管理費として250ルピーを政府に支払う。

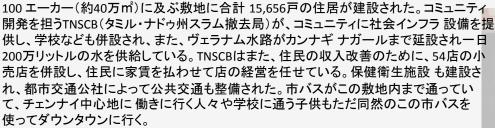








チェンナイから20 kmのところにあり、タミル・ナドゥ州のカンナギ ナガールは定住・再活性 プログラムの一つが行われている。



また、NGOによって30人の 男性と女性による セルフヘルプグループ(SHG)が結成され、コミュニティ開発プログラムにおける基礎的トレーニングを提供して女性への権限委譲の加速化、収入増加を支援している。ニーズの高い刺繍レーニング コースがSHGメンバーの女性に提供されている。



ー戸: 約375平方フィート (約35 m²)の広さに、 ベッドルーム1部屋、 広間、キッチン、独立し たトイレ、風呂場で構成 されている。





JETRO

【免責事項】本レポートで提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用ください。ジェトロでは、できるだけ正確な情報の提供を心掛けておりますが、本レポートで提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益等を被る事態が生じたとしても、ジェトロ及び執筆者は一切の責任を負いかねますので、ご了承ください。